

# ほんばこ

愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2019

秋の気配が色濃くなりましたが、まだまだ暑い日が続いております。

夏休みも終わり、運動会の時期になりました。皆さん練習や準備などを頑張っている姿をよく見かけます。練習や準備の間に時間を設けて休憩もかねて読書をしてみてはいかがでしょうか。読書の秋も近づいているので、丁度いいと思います。

8月(葉月 はづき 秋風月 あきかぜづき 仲秋 ちゅうしゅう)

\*\*\*二十四節気\*\*\*

立秋8日 りっしゅう

初めて秋の気配が現れてくる頃です。暦の上では秋になるが、実際には残暑が厳しく1年で一番暑い時期です。

処暑 23日 しよしよ

暑さが峠を越えて過し易くなり始める頃です。二百十日、二百二十日と並んで台風襲来の警戒日とされています。

## 令和元年度 第1回 図書委員会主催 図書館読書会 報告

- 日時・場所 令和元年(2019年)7月4日(木)放課後 本校図書館にて
- テーマ 安岡章太郎『サアカスの馬』(集団読書用テキスト)
- 安岡章太郎:大正9年(1920年)高知県生まれ。代表作『陰気な愉しみ』『悪い仲間』『海辺の光景』『流離譚』『伯父の墓地』『鏡川』など。平成25年(2013年)没。
- 『サアカスの馬』:昭和30年(1955年)発表。安岡章太郎自身の十代の旧制中学校時代(昭和初期)に題材をとる。何をやってもダメ人間で「まァいいや、どうだって」が口癖の「ぼく」は、中学校の隣の靖国神社に繋がれているしょぼくれた馬に感情移入して慰めを感じている。だが、靖国神社の祭礼の日、その馬がサーカスで大活躍しているのを見る。「ぼく」は思わず馬に大拍手をしていた。
- 参加者人数 3年生4人、2年生7人、1年生4人の計15人。教職員4人。
- 出た意見他(代表的な感想・意見をまとめた)
  - ・「ぼく」は劣等感を持った少年で、しょぼくれた馬と自分を重ね合わせている。が、サーカスで馬が活躍したことで、自分にも潜在能力がある、自分もいつかこうして華やかに活躍できる日がくる、と思えたのではないか。(圧倒的多数)
  - ・「ぼく」は馬の奇跡を見て拍手した。その後頑張って活躍するのか、ガッツがないのでさみしい人生を送るのか。私は結局さみしい人生を送ると思う。
  - ・「ぼく」は何をやってもダメな落ちこぼれで、これは自分だと感じた。むしろ安心し、ほっとした。こういう生き方があってもいい。
  - ・感情移入して仲間だと思っていた馬の予想外の活躍を見て、「ぼく」は変わるのか、相変わらず落ちこぼれ人生を送るのか。

・戦時中で、「成果」を求められる環境だっただろう。何かと頑張る人は、壁を乗り越えている間はいいが、壁に当たってつぶれてしまう可能性がある。対して「ぼく」は壁に当たらず壁をスルーする人で、このままいくのでは。

・彼は何に対しても頑張ることをしない人だ。でも、馬の活躍を見て大拍手しているので、一生懸命に頑張ることを始めるのではないか。

・生徒としても兵隊としてもしょぼくれて落ちこぼれであった自分がかえって生き延び、華やかに飾られ送り出された兵士たちは各地で戦死した。拍手喝采でヒーローを送り出す軍国主義の大衆の熱狂は危険だし、それに踊らされるのも危険だというシニカルな視点が入っているのではないか？

・軍国主義の時代・社会との関連はありそうだ。時代・社会のせいだとすれば、時代・社会が変われば意欲を持って頑張るかもしれない。

・今の意見を聞いて感じが変わった。「ぼく」はひねたところがあり想像力が豊かな人かと思っていたが、集団の熱狂に埋没せず別の視点から物事を見ることのできる人だ。

・芸能関係の人も、超売れっ子になり多忙になると、成功し賞賛されるせいで自分自身のやりたいことができなくなった、と嘆く人がある。売れすぎて自殺する人も。

・この馬は拍手喝采されて踊らされるよりも、しょぼくれたままでよかったのではないか？ その人が本当にその人としていられるためには？

・『舞姫』の太田豊太郎も親友のはずの相沢から人間としてかばってもらえず「能力・成果を示せ」と言われる。驚田清一の評論に、現代の子どもはたえず能力や成果を要求され、自分自身としてあるがままに受け入れられていないので、たえず生存の危機に直面している、とある。

・どうせがんばらなければならないことは分かっているのだから、「がんばれ、結果を出せ」と追い打ちをかけることはない。何でも上達すればするほどよりハードなレベルが待っていて、きりがなく、息切れする。

・「がんばる」とは何か？「勤勉」であるべきか？ エデンの園ではアダムは働いていなかった。日本でも光源氏は労働しない。今は長時間労働で頑張りを続けて成果を出すことが価値があるとされる時代だ。富国強兵（戦後は経済成長）時代の名残か？

・だが、グローバル競争社会の中で生き残るには仕方がない？

・世界の人と競争するのではなく長所を生かしあって仲良くするのがよい。

・何かエライ人になる必要はない。自分は自分であればよい。

7 付言：他人に踊らされず自分らしく生きること、勤勉に頑張ること、数字で成果・結果を出すことは、それぞれ違うことかもしれない。今は頑張って成果を出すことが要求されがちだが、それはもしかしたら国家主義や市場主義のバイアスのかかった価値観（思想）なのかもしれない。では、人間らしい価値観とは？